

JCAAW

Japan Commerce Association of Washington, D.C., Inc.
ワシントン日本商工会会報

3月号 2024年 No. 560

目次

- 新会員紹介コーナー……………2
- 研修会報告「米国エネルギー省(DOE)専門家による核融合エネルギー(Fusion Energy)セミナー “Introduction to Fusion Energy and New Vision for DOE’s Fusion Energy Program”」……………4
- 「Recapturing Happiness: The Enduring Spirit of Ishinomaki」写真展のご案内……………6
- 広告募集のご案内……………8
- ワシントン月報(第198回)「30年闘争記 ～ローファームの分裂～ ～我が人生～」
米国特許弁護士 服部 健一……………9
- 今月の書評「乾杯、悪魔は笑う: ディープステートの旅」
ポトマック・アソシエーツ 池原 麻里子……………14
- English Rescue by Jennifer
「Language and Culture」……………16
- 編集後記……………18

JCAW Copyright © 2024 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

今月の特集

「新会員紹介コーナー」

今月は新たに会員になりました、企業1社と個人1名
をご紹介します。P.2



「研修会報告:『米国エネルギー省(DOE)専門家による核融合エネルギー(Fusion Energy)セミナー “Introduction to Fusion Energy and New Vision for DOE’s Fusion Energy Program”』」

先月の研修会は米国政府・エネルギー省の専門家をお招きし、地球が直面している気候変動・温暖化問題に対応するための新エネルギーや開発プログラムに関して、ご講演いただきました。ご報告いたします。P.4～

連載

「English Rescue by Jennifer: Language and Culture」

今年のテーマは「American Sports」。アメリカスポーツの歴史などをジェニファー先生に掘り下げていただきますが、今月は一番人気と目されている「アメリカンフットボール」。熱量大のアメフトのルールや人気の訳などご教示いただきました。P.16～

お知らせ

「米国での生活と移民法」

今月の連載は事情により休載致します。次号をお楽しみに！



新会員紹介コーナー

新規会員の自己紹介ページです。今月は企業会員と個人会員の両方から紹介文をいただきました。

なお、既存会員による自己紹介機会もございますので、お気軽に事務局 (office@jcaw.org)までご連絡下さい。

企業名: Cavalier Logistics (Mitsubishi Logistics Group)

責任者: 栗俣 力

 45085 Old Ox Road, Sterling, VA 20166

 703-733-4010

 www.cavlog.com

従業員数 : 200人

他の営業拠点 : Newark, Chicago, Atlanta, Los Angeles, London

業務内容 : Cavalierは、昨年10月に三菱倉庫が買収しました米国に本社を置く物流会社で、米国主要都市と英国ロンドンに物流拠点を構えています。特に医薬品などヘルスケア分野の製品の物流に注力しており、他に政府系貨物、一般商材も取扱っています。今後、更なる物流拠点の整備を進め、サービス拡充を図って行く予定でおります。

入会動機 : 社業の性質上、私共の本社は若干ワシントンDCから離れた所にあります。が、日系企業の皆様との交流を深めたく、入会致しました。

会員名: 忠津 充

 tadatsum@gtlaw.com

 202-983-0565

自己紹介・入会動機

ワシントンDCで弁護士(日本・ニューヨーク州登録)として勤務しています。皆様との交流により自己研鑽に励みたいと思います。

米国日本通運株式会社は2022年1月より、社名をNXアメリカ株式会社へ変更致しました。



帰国の際の引越はNXアメリカにお任せください

お問い合わせ、お申込みはNXアメリカ ワシントン営業所まで

TEL: (703)-661-8326 (日本語ダイヤル)
URL: <http://www.nittsu.com/hikkoshi>



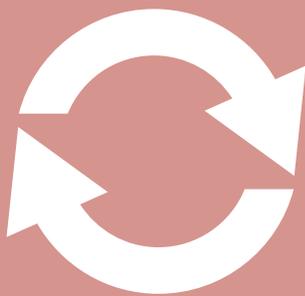
Human Resource Solutions

「人事」から始まる
「経営戦略」

詳しくはこちらから



登録情報のご確認、更新をお忘れなく



法人会員、個人会員ともにご登録情報（会員名、電話番号、メールアドレスなど）にご変更がある場合は、お気軽に事務局までメール（office@jcaw.org）にてご連絡ください。

会報やその他の情報がタイムリーにお手元に届きますよう、登録情報の更新にご協力ください！



研修会報告

「米国エネルギー省 (DOE) 専門家による核融合エネルギー (Fusion Energy) セミナー

“Introduction to Fusion Energy and New Vision for DOE’s Fusion Energy Program”

講演者: 米国エネルギー省 (Department of Energy)

Scott C. Hsu氏, Senior Advisor to the Under Secretary for Science and Innovation

Sam Wurzel氏, Technology-to-Market Advisor at the Advanced Research Projects Agency-Energy (ARPA-E)

研修担当理事: 須内 康史 / 上坪 雄之

2024年2月16日(金)、ワシントン日本商工会は、米国エネルギー省 (Department of Energy、DOE) の専門家であるScott C. Hsu氏とSam Wurzel氏をお招きして、「核融合エネルギー」(Fusion Energy) についてオンラインと対面のハイブリッド形式の研修会を開催しました。

気候変動への対応が求められる現在、核融合エネルギーは脱化石燃料・脱炭素を実現する新しいエネルギー源として注目されています。今回の研修会では、まず核融合エネルギーの基本的な仕組みやメリットについて学びました。そして、最近の技術的な進展、それに伴う民間投資のトレンドについて紹介いただいたうえで、米国政府の掲げる核融合エネルギーに関するビジョンやエネルギー省が取り組んでいる開発プログラムについてお話いただきました。

また、核融合エネルギーの普及に向けては商業化の実現がカギとなってくる中、民間部門における核融合エネルギーの技術開発の事例や、この分野におけるサプライチェーンの仕組みと機会について解説いただきました。

講演後に行われた質疑応答では、燃料供給の課題、核融合エネルギーに関する規制・許認可の動向、将来のエネルギーミックスの見方など活発な意見交換がなされ、新しいエネルギー源として注目を集める核融合エネルギーについての理解を深めたいへん貴重な機会となりました。



また今回の研修会では、米国政府の専門家の方々をお招きすることができ、日米両国間の交流の一つの場を提供できたことを研修担当理事として大変喜ばしく感じております。今回の研修の実現にご協力いただきましたエネルギー省の講師の方々及び関係各位の皆様には、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

以上

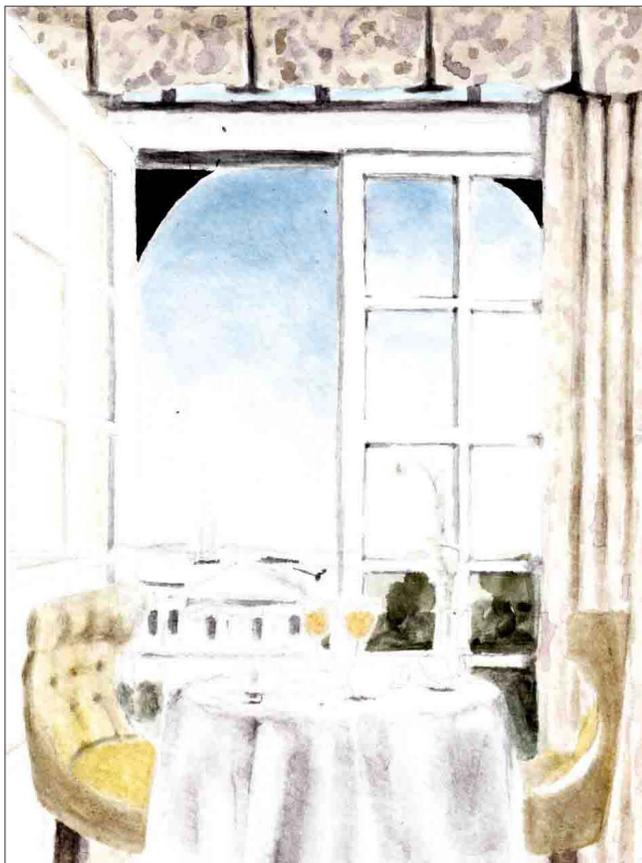


Illustration by Emi Kikuchi



**YAMATO
TRANSPORT
U.S.A.**

**INTERNATIONAL
MOVING SERVICE**



お荷物の多い方! 時間のない方!
面倒なお引越は全てまかせて
らくらく!



安心

引越 5&5 海外パック

箱に入らない家具や
自転車なども送りたい、だけど安く
済ませたい! そんな方へ



丁度いい

ベーシックプラン

定形の箱に入るお荷物だけ
ご自身で梱包をして節約!
すぐに必要ではない
お荷物は船便で割安に



節約

単身プランSea

定形の箱に入るお荷物だけ
ご自身で梱包をされる方
必要な荷物を
最短の所要日数でお届け



早い

単身プランAir

各サービスの詳細はウェブサイトにてご覧いただけます!

www.yamatoamerica.com/cs/

フリーダイヤル 5 4 5 6 5 8
1-866-5-KIKOKU

日本以外の世界中へのお引越・米国内のお引越も!

米国ヤマト運輸 ワシントンDC支店
22930 Quicksilver Drive, Unit 115
Dulles VA, 20166
Phone: (703) 661-3501
Email: wasoperat@yamatoamerica.com



*Sasakawa Peace Foundation USA and
The Japan Information & Culture Center, Embassy of Japan present*

Recapturing Happiness

The Enduring Spirit of Ishinomaki

Late January to Mid March, 2024

Japan Information and Culture Center
Embassy of Japan

1150 18th Street NW
Washington DC, 20036

Have a question? Contact Sasakawa USA at kishidate@spfusa.org

Keisuke Hirai
PHOTO EXHIBITION

Free and open to all

Following the Great East Japan Earthquake on March 11, 2011, Mr. Keisuke Hirai travelled to Ishinomaki city in Miyagi prefecture to begin documenting the disaster-struck area. What began as a trip to capture recovery efforts taking place in Ishinomaki turned into a photo project capturing moments of joy within the city's community despite the incomprehensible adversities that confronted them. This photo exhibition tells the personal stories of the residents of Ishinomaki in the years after 3.11, capturing the resilience of the human spirit, the joy of community, and the moments of happiness that persisted even in times of darkness.

What has also emerged following the disaster is a strengthening of the U.S.-Japan alliance by initiatives such as Operation TOMODACHI, a joint humanitarian assistance effort by Japan and the U.S. to respond to the catastrophic effects of the earthquake, tsunami, and resulting nuclear accident. Not only are bilateral relations with respect to defense, trade, and diplomacy closer than ever before, but the countless personal relationships formed between the two countries also demonstrate the tightly intertwined nature of the relationship. This exhibition reminds us of the value of community and the happiness that shines through even in dark times when we come together, be it as family, neighbors, or allies.



広告募集のご案内

JCAW会報に広告を掲載しませんか？



JCAWでは、広告掲載の申し込みを承っております。JCAWは500名以上の会員からなり、ワシントン地域の日本人社会に広く浸透しています。

是非、貴社の広告や宣伝にJCAW会報をご利用下さい。

会報の広告にリンクを設定する事により、クリック1回で、貴社のウェブサイトやEメールアドレスにアクセスすることができます。年間契約でさらにお得になります。

JCAWウェブサイトのトップページには、バナー掲載など、各種オプションを取り揃えております。

詳しくは、JCAW事務局までお問い合わせ下さい。



広告のイメージ図



ウェブサイトのバナーのイメージ図

料金体系（2024年1月からのレート）

広告掲載先	サイズ	商工会会員		非会員	
		月料金	年料金	月料金	年料金
会報※1	1/4ページ	\$55	\$495	\$80	\$720
	1/2ページ	\$110	\$990	\$135	\$1,220
	1ページ	\$220	\$1,980	\$265	\$2,385
ウェブサイト※2	200px X 33px	なし	\$330	なし	\$825

※1 会報広告 原稿制作費は当広告掲載料金に含まれません。原稿は広告主様にて手配願います。1年（1月～12月）契約で1回割り引きとなります。（会報は年10回発行）

※2 ウェブサイトのバナーは年間契約（1月～12月）のみとさせていただきます。（バナー作成を依頼する場合は、別途\$50～対応いたします。お気軽にご相談ください。）

お問い合わせ先

Japan Commerce Association of Washington, D.C., Inc.
 1819 L Street N.W., Suite 410, Washington, D.C. 20036
 TEL: 202-463-3947 FAX: 202-463-3948
 Email: office@jcaaw.org URL: www.jcaaw.org

今月の書評

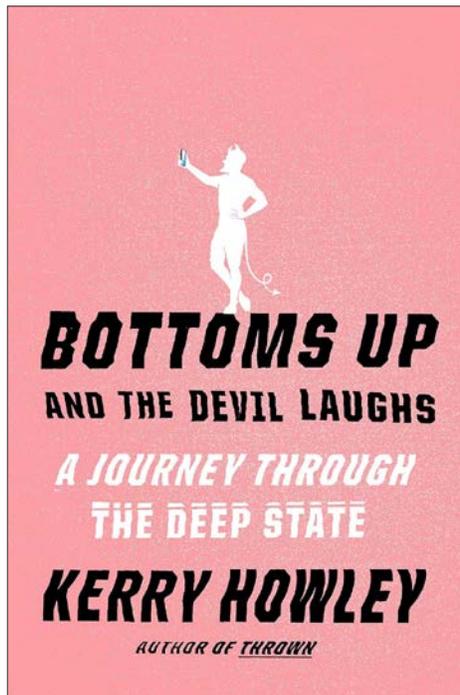
政府はありとあらゆる情報を収集し

思い通りのストーリーを描くことができる

「乾杯、悪魔は笑う：ディープステートの旅」

ケリー・ハウリー

ポトマック・アソシエーツ 池原 麻里子



「乾杯、悪魔は笑う：
ディープステートの旅」
ケリー・ハウリー（クノップフ社）

貴方はデータに関するデータだ。ソーシャル・メディアにポストしたこと、検索したこと、メールしたこと、「いいね」をポチっとしたこと、フォローしている人すべての接続の地図だ。

著者はニューヨーク誌ライター。本書では諜報スペシャリストだったリアリティー・ウィナーを中心に、政府の情報収集とその利用方法について描いている。政府はありとあらゆる情報を収集し、現実の複雑な状況から一部の情報を切り離して、思い通りのストーリーを描くことができる。

ウィナーの実体験を描く過程で、NSAによる国際的監視網（PRISM）の存在を告発しロシアに逃亡したエドワード・スノーデン、内部告発と情報漏洩を伝えるウィキリークス創設者ジュリアン・アサンジ、多くの機密情報をウィキリークスに漏らして諜報活動取締法等違反で有罪となったチェルシー・マニング、アルカーイダの容疑者の尋問で水責め拷問を使用したことをリークしたCIA職員ジョン・キリアクーといった機密情報リークに関わった人物たちの運命にも触れている。

リアリティー・ウィナーは珍しい名前だが、本名だ。父親は政治、歴史、哲学、宗教観上、彼女に大きな影響を与えた。同時多発テロが起きた時、9歳だった彼女は父と地政学、イ

スラム教について議論し、アラブ語を学ぶことを決心する。理想主義に燃えたウィナーは18歳で空軍に入隊し、ダリとパシュトゥー語を話す言語専門家となり、NSAで勤務するようになる。ドローン・プログラムに配属され、米軍に情報を与えるべく、アフガニスタンでのやりとりを諜報、翻訳。敵650人の逮捕、600人の殺害、900の重要ターゲットを識別したとして、空軍称揚賞を寄与された。

6年の勤務後、2016年末に名誉除隊されたウィナーは、アフガニスタンでNGOに参加して活動しようとするが、高卒だったためその望みは叶わなかった。ヨガを教えていたが、まだトップ・シークレット・クリアランスを持っていたので、NSAの下請け会社の社員となり、陸軍基地で勤務し始める。

イランの航空宇宙プログラムをペルシャ語から英訳する作業をしていたウィナーは、ロシアの2016年米大統領選への介入についての機密情報をサーチ。見つけて印刷した5枚の文書をスカートの下に隠し、持ち出し、インターネット・メディア「インターセプト」に送付する。というのもインターセプトの記者たちは、ロシアの選挙介入に懐疑的で、彼女はその活動についてちゃんと米国民に真実を知らせるべきだと考えたからだ。同社はエドワード・スノーデンが持ち出した機密文書を公開したことで有名だ。

インターセプトはウィナーが送付した文書がどのプリンターで印刷されたかを分からなくする加工をせずにそのまま、ネットで発表してしまう。この文書にアクセスした者が6人しかいなかったことから、身元が割れてしまい、彼女の家にある日突然、訪れたFBIエージェントたちに逮捕されてしまう。

ウィナーには1917年諜報活動取締法違反で、5年3か月の禁錮刑が科された。これはメディアに機密情報をリークしたケースとしては、最長の刑だった。不倫相手で自身の伝記執筆者に軍の情報を漏洩していたデイヴィッド・ペトレイアス陸軍大将が、CIA長官職を辞任しただけで済んだのは大差がある。リークされたのが、政府に都合が悪い情報なので刑罰は左右されるのだ。

(New Leader2023年12月号より転載)

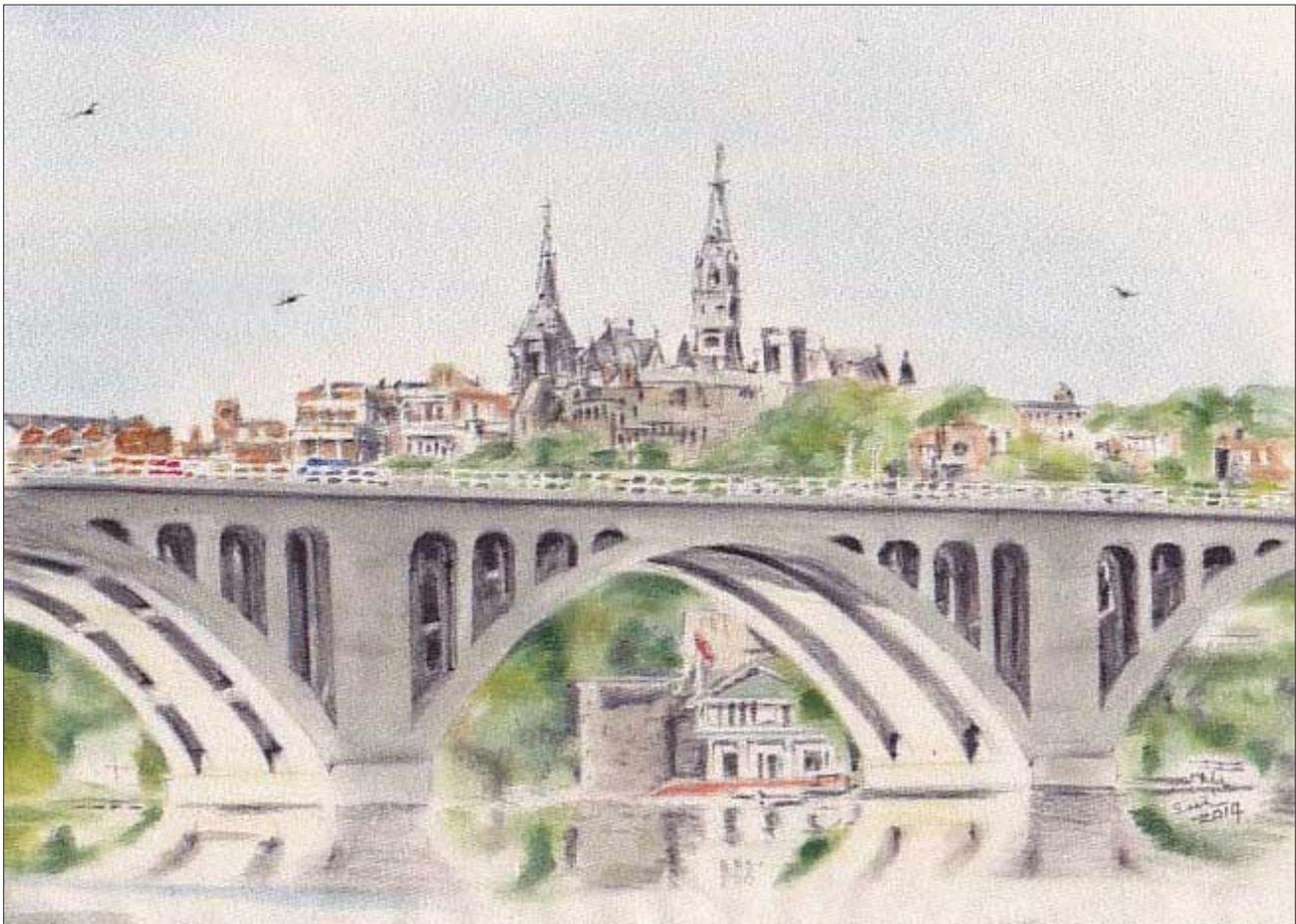


Illustration by Emi Kikuchi

English Rescue by Jennifer: 「Language and Culture」

ジェニファー・スワンソン

Hot Topics – American sports

With the excitement of Super Bowl LVIII, and the thrilling news that Shohei Ohtani signed with my hometown Dodgers, I decided to focus on popular sports in 2024. But first a note: in case you are new to this JCAW column, in the past few years, I have spotlighted famous American speeches, poems, podcasts and others. Back issues can be found on the JCAW website.

Sports play a crucial role in American culture. Traditionally, baseball held the title of the “national sport,” but in recent decades, American football has taken the lead in terms of TV viewership. Basketball gained popularity in the 1980s, while ice hockey and soccer joined the mainstream sports scene around the early 2000s. We will explore the sports in that order.

History: American professional football originated in the late 1800s as a college sport, with the first game played in 1869 between Princeton and Rutgers resembling soccer. Harvard students later developed a game combining soccer and rugby, leading to the establishment of football rules in 1876 by representatives from Harvard, Princeton, Yale, and Columbia universities.

Walter Camp, a Yale coach, played a pivotal role in distinguishing American football from rugby, introducing the 11-man team, the line of scrimmage, and the system of downs. The inaugural professional football game occurred in 1895, and in 1920, professional teams formed what would become the National Football League (NFL). The NFL incorporated the American Football League in 1970, and since 1967, the Super Bowl has featured the top two teams at the end of each season.

Rules: A football game begins with a kickoff as the kicking team launches the ball to the receiving team. The receiving team’s player catches the ball and attempts to advance towards the kicking team’s goal line. The kicking team aims to stop the ballcarrier by tackling or pushing them out of bounds.

After a tackle, the game resumes from the spot where the ballcarrier was stopped. The line of scrimmage separates the two teams, and the offense and defense take turns playing. The offense, led by the quarterback, aims to score by moving the ball through running or passing plays. The defense works to prevent scoring through tackles, interceptions, or forcing the offense into a safety.



The offense has four downs (or chances) to move the ball at least 10 yards. Successful advancement grants another four downs. Touchdowns score six points, and extra points

follow, with kicking or running/passing into the end zone earning additional points. If the offense doesn't score a touchdown, a field goal is worth three points.

Defensive scores include touchdowns from recovering a dropped ball, intercepting a pass, or a safety by trapping the offense in their end zone for two points.

Why is football so popular? American football's popularity in the US can be attributed to its deeply ingrained cultural tradition, especially at the college level, where intense rivalries and longstanding traditions captivate a passionate fan base. (This reminds me of the high school baseball championship in Japan.) Extensive media coverage, notably the widely watched Super Bowl, plays a pivotal role, ensuring broad accessibility and widespread attention. The sport's communal nature, emphasized by tailgating and social gatherings, fosters a sense of community among fans. The strategic and physical elements of the game, coupled with the rise of fantasy football and sports betting, contribute to its enduring appeal. Additionally, youth and school programs introduce the sport early on, cultivating a lifelong connection to football. In essence, the combination of cultural significance, media exposure, major events, community engagement, strategic appeal, and youth involvement has solidified American football as a prominent and enduring part of the American sports landscape.



A Game of fighting for territory: American football is unique in its structure and strategy, involving both offensive and defensive plays aimed at gaining territory on the field. The objective is to advance the ball into the opponent's end zone to score points. While American football is a prominent example of a sport with territorial objectives, it is not the only one in the United States.

Lacrosse, another sport with Native American origins, also shares similarities in terms of territorial play. In lacrosse, teams compete to score goals by shooting a ball into the opponent's goal, which is defended by a goalie. The movement of the ball across the field involves strategic passing, ball possession, and defensive plays that contribute to gaining or defending territory.

Since many Japanese people tell me they don't understand football rules, here is a video that briefly explains is: https://youtu.be/3t6hM5tRlfA?si=UPjdeWrcl5yzT_bG



～Jennifer Swanson プロフィール～

日本にて7年在住中に、高校英語教師の経歴を持ち、日本企業でも働いた経験を生かし、現在は米国大学講師、日米協会講師、在米日本人に英語レッスンの他、米国人に日本語も教える。日米でのさまざまな経験を基に、“頻出テーマで はじめてのTOEFLテスト 完全攻略”(高橋書店: Jennifer Swanson/四軒家 忍 (著))を出版、多方面から楽しい英語レッスンを展開しています。

<http://about.me/jenniferswanson>



3月号 編集後記

春を感じさせる気温の日が多くなり、日照時間が徐々に長くなっているのに加えて、サマータイムになって一気に春の訪れを感じます。

日米関係及びワシントンDCの春を象徴するイベントと言えば桜祭りです。一連のイベントが今月下旬から始まり、来月中旬のストリートフェスティバルでクライマックスを迎えます。桜の開花とともに春の訪れを満喫すると同時に、ワシントンDC在住の日本人としては日米関係の歴史を改めて振り返る良い機会かと思えます。

ご承知の通り、来月中旬には岸田総理が国賓としてワシントンDCを訪問予定です。大使館の皆さんは準備に忙殺されていることと思いますが、商工会会員の中でも各種イベントに会社・個人として関与されている方々もいらっしゃると思います。大統領選挙後の見通しが不透明ですが、この機会を最大化して皆で日米関係を盛り上げたいと思います。

岡崎・岡本

会報に関するお問い合わせにつきましては、[JCAW事務局](#)までご連絡ください。
